

氏名(本籍)	うえ はら ひろし 上原 宏 (神奈川県)
学位の種類	博士(経営学)
学位記番号	博甲第5246号
学位授与年月日	平成22年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	ビジネス科学研究科
学位論文題目	オンラインコミュニティ書込みにもとづく視聴者行動の特徴解析
主査	筑波大学教授 博士(工学) 吉田 健一
副査	筑波大学教授 博士(工学) 津田 和彦
副査	筑波大学教授 理学博士 久野 靖
副査	筑波大学准教授 博士(学術) 佐藤 忠彦
副査	大阪大学名誉教授 工学博士 元田 浩

### 論文の内容の要旨

SNS、blog、掲示板など、ユーザー同士で情報を発信しあうサイト（以下、オンラインコミュニティと呼ぶ）が発展を見せている。本研究では、オンラインコミュニティにおいて何らかの事件やイベントをきっかけにして書込みが一時的に殺到する現象（すなわちオンラインコミュニティの行動）について、特にその重要な契機とされているテレビとの関係の分析を試みている。

オンラインコミュニティの行動が従来の群衆行動と大きく異なる点は、そのライフサイクルが極端に短い点にある。最も短いものは、テレビなどの視聴中にリアルタイムに視聴者が書込む実況掲示板に見られ、シーンチェンジにともない、そのライフサイクルは数秒単位で切り替わる。先行研究ではオンラインコミュニティを特徴解析するための様々な手法が提案されているが、実況掲示板におけるような短いサイクルでの状態変化を捉えるために有効な手法は未だ提案されていない。

そこで本研究では、従来手法を拡張して、こうした短いライフサイクルを、関心度と呼ぶ尺度で測定する解析手法を提案している。更に、実際に提案手法を実況掲示板に適用して、短いライフサイクルで変化する視聴者の群衆行動を精度高く捉えられることを確認している。具体的にはテレビドラマを外部イベントとするテレビ実況掲示板を解析し、実況掲示板の視聴者行動がドラマの状態遷移、すなわちシーンの変化に対応して変化し、その変化の様相が一般の視聴者行動と同じである事、すなわち、実況掲示板の解析により一般の視聴者の解析が可能な事を示している。

実況掲示板のように参加者が同一時間に一齐に書込むオンラインコミュニティは一般に同期型とよばれる。同期型での書込みは概して短文であり、瞬間的な関心を単語で表現したものが多く意見としてのまとまりに乏しい。これに対して参加者が互いに時間同期せずに書込むオンラインコミュニティは非同期型と呼ばれ、各参加者が時間的拘束を感じることなく書込みを行うため、比較的まとまった意見が書込まれる傾向がある。

本研究では、同期型における短いライフサイクルでの状態変化を捉える手法を基礎にして、非同期型における意見形成の特徴を捉えるための応用手法も提案し、化粧品のテレビCMに対する意見を書込む掲示板にどのような特徴が現れるかも解析している。

オンラインコミュニティに何らかの書込みをした経験のある人は2008年時点でインターネットユーザーの61.4%に上ると言われる。そこでコミュニティに発生する行動は、もはや一部の特殊なユーザーのものでなく、一般大衆の行動特徴を代表しつつあり、インターネット社会における流行や世論形成などの社会現象のメカニズムを知る上で重要なてがかりとなると考えられる。本研究は、テレビ視聴者に見られる群衆行動の特徴解析を通じて、インターネット社会におけるマスメディアによる流行・世論形成メカニズムの解明に資するものである。

論文は6章から構成される。まず第1章でオンラインコミュニティの行動研究の重要性について整理し、2章で先行研究をサーベイした上で、本研究の位置づけを明確化している。続いて3章でライフサイクルの短い視聴者行動を精度高く捉えるための手法を提案している。4章では、提案手法を同期型オンラインコミュニティに適用して視聴者行動の特徴抽出を試みている。5章では、提案手法を視聴者の意見形成の特徴解析に応用する方法を提案し、その有効性を確認するためテレビCMのオンラインコミュニティでのインパクトを測定し、最後に6章で本研究の成果を総括している。

### 審 査 の 結 果 の 要 旨

近年オンラインコミュニティに関する分析の重要性が広く認識され、様々な研究が行われている。本研究はオンラインコミュニティに関する分析の研究として比較的初期からのものであり、従来手法で十分な解析が行えなかった短いライフサイクルの行動の解析手法を提案している点、提案手法を用いてテレビ実況板やテレビCM用掲示板など複数の掲示板の解析を試みている点、など社会的価値も高い研究であり、経営学的価値も認められる。

一方、本研究で分析対象としているのはWWWやblogに書き込まれた情報であり、発信者側の情報に偏っている。発信者側からの情報解析は発信者の恣意的な操作の影響を受けやすいという点で課題が残されている。しかし、オンラインコミュニティに関する研究の歴史はまだ浅く、研究の初期として、様々な課題が残っている事自体は自然であり、逆に重要な研究分野の比較的初期に優れた研究成果をあげた事は、著者の見識の高さを示していると、捉える事もできる。

以上、一部に課題は残されているものの、本学位論文、及び、研究の内容は、博士（経営学）を授与するに十分なものと判断する。

よって、著者は、博士（経営学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。